

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report

1

2012 No.688

3 はじめの言葉

4 国の有り様、社会の有り様、

企業の有り様を考える

田原文夫

EUを構成する一部の国家の財政が破綻しそうだということで、EU全体に激震が走っている。EUの範囲だけで騒いでいてくれるのならいいが、それが世界中を駆け巡って日本にまで影響してきている。思えば、アメリカ経済圏、日本を中心にしたアジア経済圏への対抗経済圏の創出を目指してのEU諸国連合だったが、所詮は目先の経済的連合だけを目標にした連合体だった。金の切れ目が縁の切れ目ではないが、一国の経済破綻が他国国民の不満材料として表面化し、EU自体の破綻にまで及びそうな話になっている。結局は、経済連携以外、何のコンセンサスもないままの共同体だったという正体が顔を出し始めた格好だ。俗に言うところの「烏合の衆連合」と等価だと言えるかもしれない。要するに、共同体としての基本コンセプトの存在しない連合体だということだ。目先の利権だけで連合する政党は多いが、政権を奪取しても多くの仕事をなし得ないのと同じである。目指すところの基本合意が必要なのは、国家も政党も企業も、皆同じだ。国家間の合意、政党間の合意、国民の合意、人間としての合意を根底から支えるものが欠落しているように思える。しかも、あらゆる分野、あらゆる領域、あらゆる世界で欠落しているように思える。新年に当たり、そのひとつひとつが埋められることを願う次第である。

10 情報社会を考える その16

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

国にしる、企業にしる、個人にしる、常に確かめておきたいのは「自分の立ち位置」である。何をするにも、何処に行くのも、原点は今自分が何処にいるかの確認からである。立ち位置にもグローバル、リージョナル、ローカル／パーソナルなものがある。時のよってはそれらが何の妥協もないほど背反する可能性もあるが、我々が意思決定するのはそういう時である。最終的な情報処理は人間がするという意味でもあるだろう。立ち位置と同じように気になるのが、人材の存在である。「英雄は時代が作る」と言われるが、必要な人材像も考えておきたいところだ。前号でも書いたが、情報社会に貢献するのは、一に人材、二に人材、三に人材である。

15 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-BIM構築が必要か その11

水田 浩

グローバル化が進められる一方で、世界的な閉塞感があらゆる産業界に押し寄

せている。特に我が国には、これに追い打ちをかけたような格好になっている東日本大震災および津波による被災がある。実に本年は、こうした客観的な経済環境、社会環境を論じているだけではなく、具体的に打開策の実践を持って邁進する年としたい。奇しくも東北地方には、地方都市を活性化させるべきいくつかの新都市構想がある。これを活かさない手はない。この新都市構想「コンパクトシティ」プロジェクトに M-BIM テクノロジーを採用することで、一気に次世代型成長産業育成のプランとして提起したい。しかもこのプランは近未来の我が国の有望な輸出産業の創出にも通じることを強調しておきたい。直接的原資として大震災からの復興予算を活用し、官民が一体となって雛形となるプロジェクトを推進するのである。文字通り「危機を飛躍変えるシナリオ」の始まりである。

2 1 連載 アーキテクチャ論 (9) 新しいシステム工学

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

最近、新しいシステム工学の取り組みが注目されるようになった。この理由は、従来のシステム工学では扱えないような複雑な問題への取り組みが必要になったことと、従来のシステム工学が成熟したことの2つがある。従来のシステム工学が成熟するまでは複雑な問題が存在していたが、顕在化していなかったということでもある。システム工学が成功したので、その外側にあっただけでも良く知られていなかった問題に取り組むことができるようになってきたということでもある。本稿では、このような新しいシステム工学の取り組み事例とそのプロセスならびに技法について紹介する

3 0 データベースの統合化は セキュリティレベルの向上策でもある

aism

オリンパス社の会計監査の虚偽報告は、日本中を驚愕させた。情報システム化がこれだけ進展した中で、これほど杜撰なシステム監査が存在していたのかという驚きである。と同時に、企業組織におけるセキュリティ対策とは、企業リスクを回避する手段であるとされてきたが、その認識を覆す行為に経営トップが直接関与してきたという事実には驚いた。もちろんシステム監査が万能ではない。限界はある。今一度、原点に戻ってみたい。

3 5 続インテリジェンスへのいざない 25 後世の糧として残して欲しい

「想定外」緊急事態への対応記録

今井 武

福島第一原発事故にかかわる調査レポートが出た。かなり興味深い内容となっている。想定外の非常事態への対応論まで言及されている。できるだけ詳細に事実を国民に開示し、トップ責任者が、どのような行動をとったかを含めて、後世の糧になる形で残してもらいたい。特に緊急時に流れた情報内容と事実とのギャップをできるだけ正確に確認できる形で。

3 8 IT 新時代とパラダイム・シフト

第 28 回 日本メーカーのテレビ事業の復権は

根本忠明

日本メーカーのテレビ事業が崩壊の危機に直面している。このなかで、東芝だけが過去

のビジネスモデルに囚われず、健闘している。家電メーカーにとってテレビは、次世代機器の要であり、放棄するわけにいかない。次世代テレビによる復権のためには、業界の努力だけでなく、各種の規制緩和を含む日本国内のデジタル環境の整備が不可欠である。

4 1 もの造れる日本再生に向けて

第二／第三の創業へ

Dr.ベスト

第4回 過重投資型産業から身軽な多様対応型産業へ

もの作り大国日本には、どうも長年の淀みが溜まってしまっているようだ。過去の技術に頼り固執するあまり、それが足枷になって新たな日本式製造システムの開発を妨げるケースが随所に出ているようだ。日本産業界における旧来の陋習（ろうしゅう）を破り、広く知識を求め、結集させるべき時を迎えたようである。再生日本の底力は、「やればできる」という、単純にして明快な意識改革が出発点である。

4 6 一味違うウェブ検索

第十八話 ネタを探す方法について

ぐうのうえぶへい

もの書きが苦勞するのが、ネタ探しである。ネタを探す方法として、どんなものが考えられるだろうか。ネタがネタである本質を考えながら、ネタを探す方法を紹介しよう。

4 8 連載 ことわざ笑タイム

すぎやまチヒロ

☆☆

WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

さらに詳しい内容をお知りになりたい方には、本連載執筆者による講演／勉強会方式による準備もしておりますので、今後のシステム開発案件にお悩みの方は、是非ともこのチャンスをご活用下さい。

cr-info@jmsi.co.jp

☆☆

WebCR 萬（よろず）相談

●ただ今現在、ERP パッケージを活用中で、パッケージに合わせた業務プロセス改革をしているが、自社独自の戦略に基づいた業務プロセス改革をしたいと考えている組織。

●ERP パッケージ活用から撤退したいと考えている組織。

●基幹系情報システムのシステム構築をアウトソーシング企業に依存しているが、現状システムの見直し点検をしたいと考えている組織。

●自社の情報システム要員を育成したいと考えている組織。

●データベースの統合化設計を考えている組織。

<http://www.jmsi.co.jp/>

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版 データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁 石井 義興 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁 豊島一政・木村 哲 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁 田原文夫 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁 一橋大学教授 安田 聖 監修 aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛戦線心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2012年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書!

トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁 高田 顯重 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法 -オーダーリングとスパース-

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁 安田 聖 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ!というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁 加藤 洋一 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文化企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁 迫 忠幸・湯浅 誠 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開港法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米軍チーム撤退の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米軍撤退所帯と新たな組み
第五章 FJO、IBM戦争	第十五章 開港場建設とバレンタイン
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米軍チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米軍チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安室隆雄と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp